

エネルギー問題議論

八戸工大生と
原子力関係者

八戸工業大学と日本原子力学会シニアネットワーク協議会は二十七日、八戸グランドホテルで「学生とシニアとの対話 in 八戸」を開き、学生と原子力関係者が原子力やエネルギー問題などをめぐって議論した。

この日は、研修参加者を中心に学生三十四人と電力会社や原子力プラントメーカーの担当者やOBら十五人が参加した。

まず、同ネットワーク運営委員の小川博巳氏が「地球温暖化とエネルギー消費、原子力への期待」と題して基調講演。続いて七つのグループに分かれ、原子力産業の現状や国際情勢、原発の耐震性、温暖化対策などをテーマに熱い議論を交わした。

学生側からは「技術者としての心構えは？」「原子力の現場でもっと実習してみたい」といった質問や意見などが挙がり、専門家たちは自らの経験や知見を交えながら、学生たちに分かりやすくアドバイスしていた。

同日は本年度、経済産業省から「チャレンジャー原子力体感プログラム」の

事業採択を受け、学生を対象に原子力産業や研究現場での研修を行った。

同日は、研修参加者を中心に学生三十四人と電力会社や原子力プラントメーカーの担当者やOBら十五人が参加した。

まず、同ネットワーク運営委員の小川博巳氏が「地球温暖化とエネルギー消費、原子力への期待」と題して基調講演。続いて七つのグループに分かれ、原子力産業の現状や国際情勢、原発の耐震性、温暖化対策などをテーマに熱い議論を交わした。



八戸工大の学生と原子力関係者が議論した「学生とシニアの対話 in 八戸」